

授業科目の区分等：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	4年	2	必修
担当教員			
築 雅之			
B (経営学科)	S (専門科目)	SM (演習)	403 (専門ゼミ・卒業論文等)
授業のねらい (概要)	経営学研究の実践的な方法や最新の知識や手法、自ら学び続ける態度や課題解決力と自発的、創造的な学修態度を育てることを目的とする。 学生自ら興味や関心のある経営の諸活動に関する研究課題を設定するとともに、各自の研究課題に則した研究計画の策定から、各自の研究計画に基づく資料収集や分析、報告、意見交換などを繰り返しながら、自己の考えを展開する能力を高めるとともに、研究成果に関する成果発表に向けた指導を行う この担当者の開講科目では主に、経営情報、情報技術、情報システム、情報ネットワーク、情報教育の研究分野を題材として、この分野の実務者、技術者、研究者を想定した基礎的な素養もあわせて育成する。		
授業計画	<p>作成した研究計画書を基に研究を進め、全体構成と細部に目を配りながら論文概要を作成していく時期である。そのため、以下の&lt;1&gt;&lt;2&gt;&lt;3&gt;を行う。</p> <p><b>【遠隔】</b></p> <p>&lt;1&gt;以下を、学生の希望するテーマにあわせて構成し、ワークショップ等の形式で学修する。  (1) 研究計画書を踏まえた研究概要の作成  (2) 実験、制作の場合の研究計画書、研究概要の作成  (3) 並行して論文本体の執筆</p> <p><b>【課題】</b> (学生発表のうち3回分程度)</p> <p>&lt;2&gt;以下のトレーニングを毎回行う。  (1) 研究概要案の要約・発表。  (2) 上記に関するコメントディスカッション  (3) 研究概要、論文本体の個別指導</p> <p>&lt;3&gt; &lt;1&gt;&lt;2&gt;のまとめとして研究概要を完成させ、論文本体の執筆を進める</p> <p>予習 (時間) : 研究概要案、論文本体の一部の発表 教員の指示に従い発表準備 (180)  復習 (時間) : 研究概要案、論文本体の一部の修正 教員の指示に従い修正、再検討 (60)</p>		
授業を通して身に付けることができる能力 (DP)	DP(商学部)の2項目を意識した科目となっている。 2. 情報の収集、分析を行い、進んで課題解決に臨む姿勢 3. 専門的分野の学びを、実務や社会で応用できる能力 DP(経営学科)の1項目を意識した科目となっている。 2. 経営資源 (ヒト、モノ、カネ、情報) を多面的に理解し、活用できる能力  <b>【身に付くスキル】</b> 課題解決力・創造的思考力		
到達目標	(1) 自らの研究計画を、意義、方法、倫理の観点から検証し、結果を踏まえて自ら研究計画を改善することができる。 (2) 自らのテーマにそった和文及び平易な英文の文献調査を踏まえ、当該テーマ周辺の研究動向を説明することができる。 (3) 研究計画に基き研究を遂行し、得られた知見を基に教員の指導の下、研究概要を作成することができる。 (4) 研究概要の全体構成に関する発表を行ない、質疑応答ができる。		
課題や小テスト等のフィードバックの方法	授業時間内あるいはMellyでの文書で全体的な解説を行うとともに、必要に応じて個別への指示を行う。特に研究概要及び論文本体の執筆、レジュメ、スライド作成、口頭発表についてのコメントと個別指導は随時行なう。		
履修上の注意	大学での学びのまとめとして卒業論文に取り組む覚悟と気概をもってほしい。 また、研究や論文執筆は、個人のみ力でできるものではなく、関心を同じくする同僚とのディスカッションやアドバイスがあって、初めて可能になるものである。自らの研究に加えて、同僚ゼミ生の研究にも関心をもち、互いによい学びができる環境を作るよう心がけてほしい。そのためにも、無断での欠席は極力避けること。発表者である同僚に「あなたの研究は聞く価値がない」とメッセージを発しているも同然だからである。		
成績評価の方法・基準	ゼミ活動における発表・相互コメント・課題など65%、最終課題35%。		
教科書	「最新版 大学生のためのレポート・論文術」 (講談社現代新書) ISBN番号：4065135028 著者名：小笠原喜康 出版社：講談社 価格：800円(税抜き)		
参考書・教材			
備考	講義科目 (ゼミ形式)  2020年度前期は「授業計画」<2>の学生による研究概要の要約・発表のパートのうち、3回分を課題研究として学修する。どの担当者の回を課題研究として実施するかについては研究分野、学生の適性、技能を踏まえて判断し口頭発表をポスターセッションなどに振り替えるとともに、前後の対面授業の回に、質疑などの機会を設定する。各回全体で330分の学修を想定している		
教員との連絡方法	大学ドメインのメール、Mellyでの個別連絡を併用。Line、Gmail等は原則として使用しない。		